

施策名 (小項目)	安全でおいしい水の安定供給	コード	作成者	役職	水道課長	
		04-05-14	梶藤 勲	氏名	梶藤 勲	
			作成者	電話	0869-66-9792	
					このシート作成に要した時間	2.0 時間

この施策の アピール ポイント	豊富な水源から清浄でおいしい水を安定してお届けしています。
-----------------------	-------------------------------

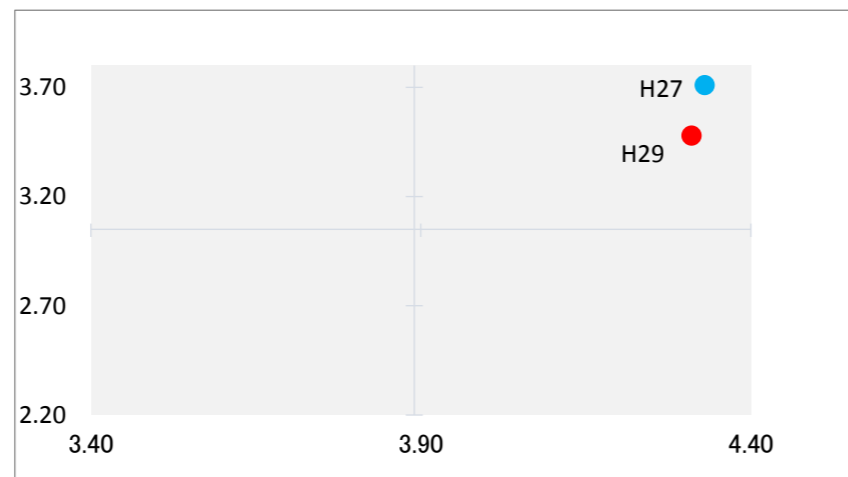
この施策の 平成29年度の 施政方針	給水人口の減少、人々の節水化傾向により、経営状況も厳しくなることをふまえたうえ、安全で安定した水の供給に努めてまいります。 また、基幹管路、施設については、点検、老朽化診断、漏水調査の結果をもとに優先順位を決め、更新整備をすすめてまいります。
--------------------------	--

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想（大項目）	04 土台となる政策「安全・安心」
	基本計画（中項目）	05 安全に暮らせるまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	水道水は、備前市民の日常生活、地域の産業経済活動において必要不可欠なものです。安全で安定した水を供給するために、厳格な水質管理、施設の計画的な更新、広範囲な水道網の適切な維持管理を行い、生活環境の改善や公衆衛生の向上を図っています。	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	人口減少や利用者の節水意識の浸透などから水需要の伸びは見込めず、厳しい経営状況にあります。その中で、老朽化した多くの管路や施設の更新とともに、大規模地震などへの対策が求められており、収支のバランスを保ちながら計画的に施設の更新と整備を進めていかなければなりません。あわせて、水質管理体制の強化など、質の向上に取り組むことで、付加価値の高い市民サービスを実現していくことが求められています。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 運営基盤の強化（専門知識・技術の継承、外部委託の推進） 安心・快適な給水の確保（水源水質の保護・保全・監視、水質管理体制の強化） 安定給水・災害対策の充実（老朽管路の計画的な更新、基幹管路・施設や配水池の耐震化） サービス水準の向上（お客様が便利で利用しやすい窓口の実現） 環境対策の強化（有収率の向上による省エネルギー、資源の有効活用） 	

⑤ 市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度		H27	H29
重要度 (%)		4.33	4.31
満足度 (%)		3.71	3.48



《グラフにおける領域の説明》



調査結果に対するコメント、市民の反応等 〔調査対象でない施策は、市民の反応等〕	市民意識調査において、満足度についてH27よりも評価が低くなっているが、重要度・満足度ともに平均値以上の維持領域である。水道料金が他市町よりも高い、路面復旧の状態が悪いなどの意見があり、経費の縮減や工事の安全を図りながら更新計画を進めるよう努めます。
--	---

⑥ 施策成果指標（基本目標・基本施策・施策意図から設定）

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績		評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値		
		H27	H28			H29		
成果指標 基幹管路の耐震化率	目標	%	25.0	25.0	41.6	基幹管路延長に対する耐震性を有する管路延長の割合 (%) 【(耐震性のある管路延長÷基幹管路延長)×100】	H32	41.6
	実績	%	29.4	29.4	28.1		H34	50.0
	達成率	%	117.6	117.6	67.5			
	ベンチマーク	%	36.0	37.2	38.7		全国平均（厚生労働省調査）	—
参考指標① 配水池の耐震化率	目標	%	50.0	50.0	50.0	耐震化した配水池容量の全配水池容量に対する割合 (%) 【(耐震化した配水池容量÷全配水池容量)×100】	H32	50.0
	実績	%	37.1	37.0	37.0		H34	60.0
	達成率	%	74.2	74.0	74.0			
	ベンチマーク	%	49.7	51.5	53.3		全国平均（厚生労働省調査）	—
参考指標② 年間有収率	目標	%	92.0	92.0	92.0	年間の料金徴収の対象となった量（有収水量）の配水量に対する割合 (%) 【(有収水量÷配水量)×100】	H32	92.0
	実績	%	79.7	80.5	77.6		H34	95.0
	達成率	%	86.6	87.5	84.3			
	ベンチマーク	%	85.2	85.3	85.4		水道事業経営指標（類似団体平均）	—
参考指標③ 料金収納率	目標	%	98.9	99.0	99.0	水道料金の調定額に占める収納額の割合 (%) 【(収納額÷調定額)×100】	H32	99.0
	実績	%	99.0	99.0	99.1		H34	99.0
	達成率	%	100.2	100.0	100.1			
	ベンチマーク	%	—	—	—			

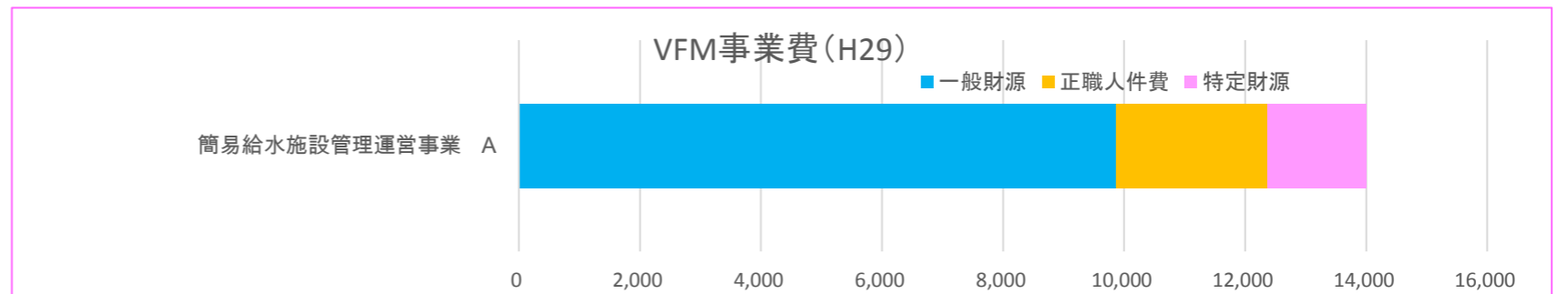
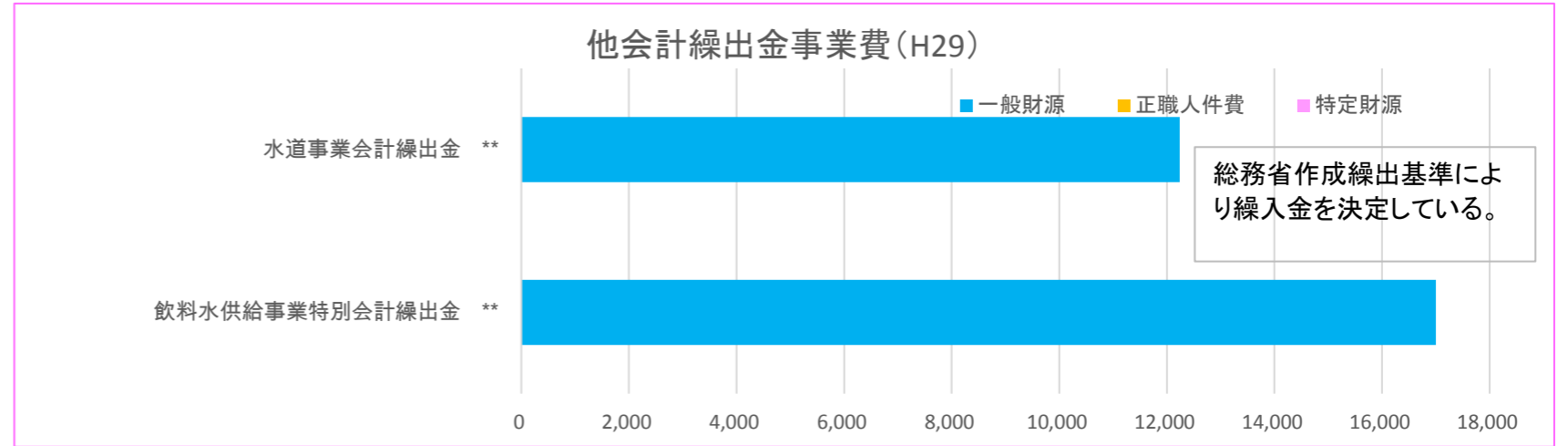
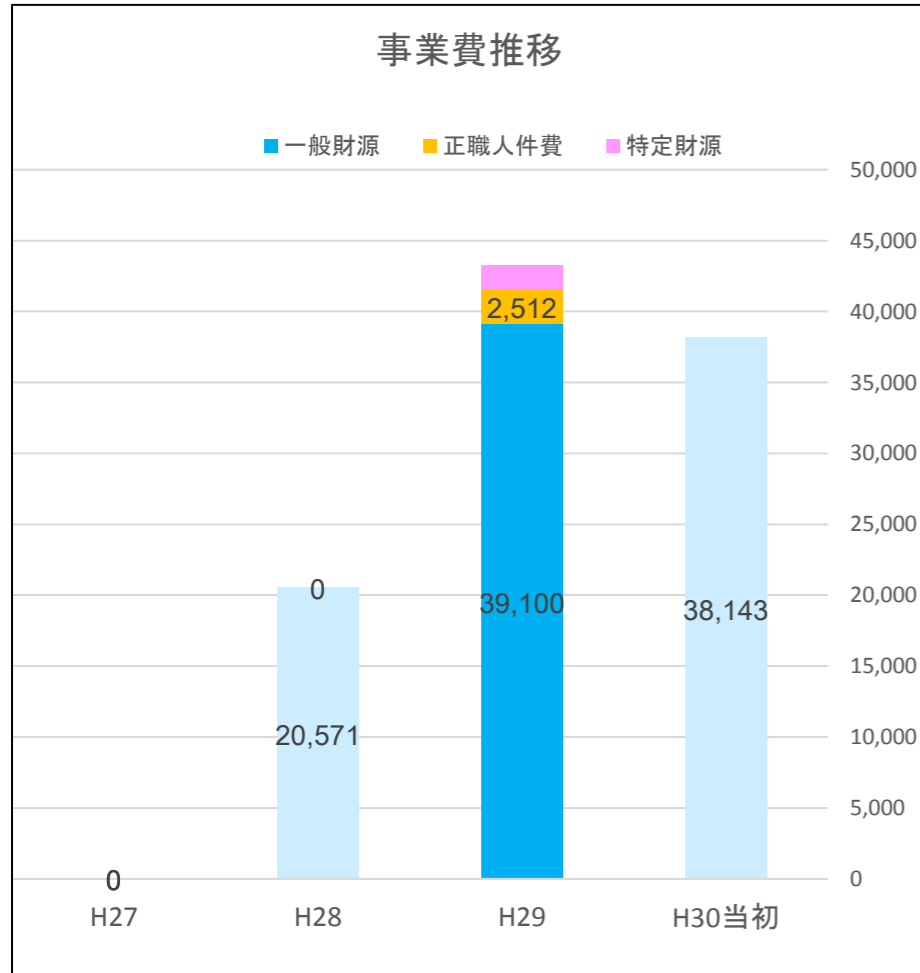
⑦ 目標達成に必要な新規事業（施策構成事務事業以外の事業）及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
産業観光課	企業誘致事業、企業立地促進事業	企業誘致により水需要の拡大が図れます。
下水道課	水道事業、下水道事業	水道料金、下水道使用料合わせて徴収することにより事務の効率化と徴収率の向上が図れます。

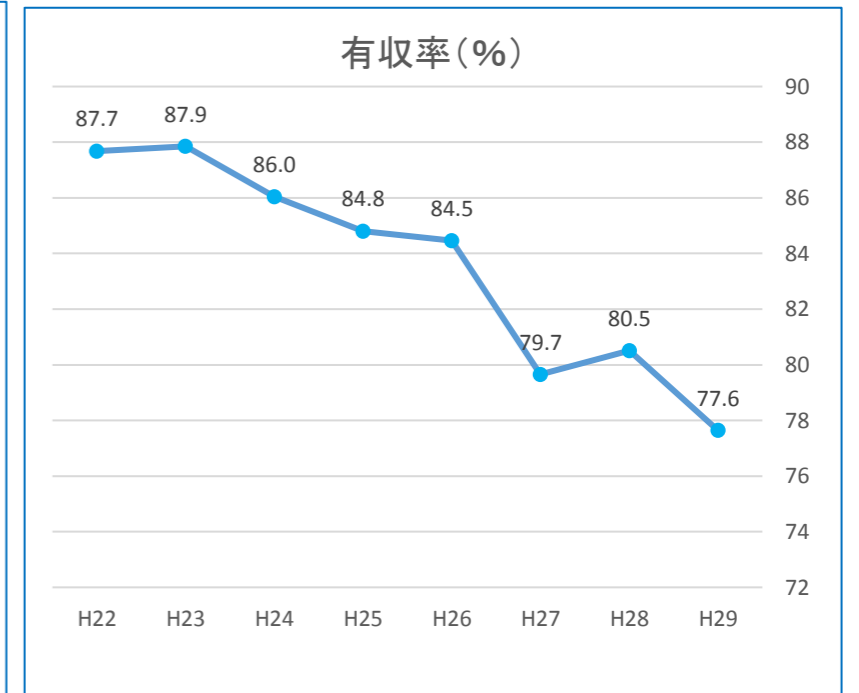
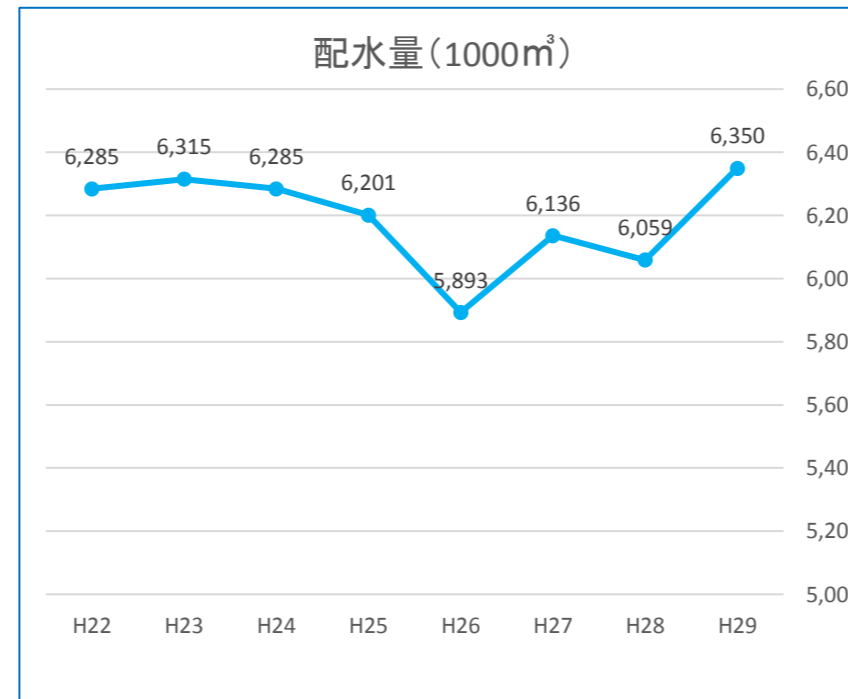
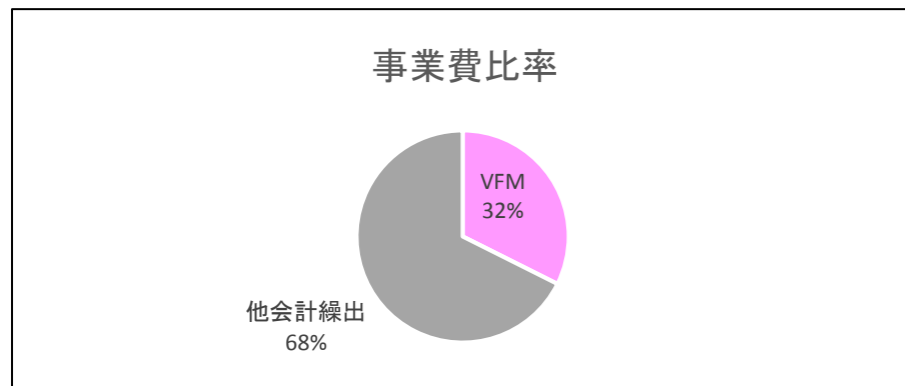
⑧ 施策の評価

項目	評価	5：非常に高い 4：高い 3：どちらともいえない 2：低い 1：非常に低い	
		判断理由（なぜ、そのランクと評価したのか）	
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか？	4	有収率の向上は、無効水量を減少させることで達成でき、動力費等を低減させることで、効率的な運営が図れます。施設の耐震化を図ることは、安全で安定した水の供給に寄与します。	
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か？	4	水道はライフラインとして重要なものであり、水質管理、施設の長寿命化を図りながらの更新・耐震化、収納率の向上を図ることは、妥当である。	
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中長期の達成見込みは？	3	有収率の値が昨年度より減少しているのは、寒波による給水管の破裂や、海底送水管の破損に伴う無効水量の増加によるものである。寒波の際の凍結防止の周知の徹底や漏水調査、試掘調査や老朽化診断により、適切な管路更新を行っていくことで、無効水量を削減し、目標値に近づけるよう努める。	
進行年度(H30年度)の取組内容 (課題解決状況)	老朽化診断により優先度の高かった、山田原のφ300管路、三石土師神根のφ200管路、大内φ400の管路の更新を行い、有収率の向上を図る。		
翌年度(H31年度)の取組目標	H29に引き続き山田原のφ300管路の更新を行う。また香登地区の新幹線側道に埋設しているφ600の管路の更新に着手する。		
二次評価者コメント	水の安定供給のために施設の更新は重要であり、特に基幹管路の耐震化、更新は、老朽化調査及び漏水調査の結果をもとに、優先順位を決めて計画的に進めてください。		基本施策への 貢献度 4 やや高い
役職	建設部長		
氏名	藤森 亨		

施策評価シート(裏面)



事業費 0.4 億円
 特定財源 0.0 億円



01 備前水道事業 事務事業評価シート【VFM】

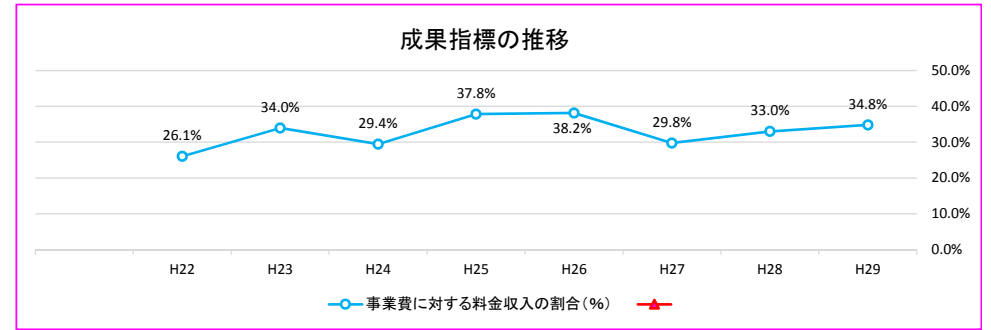
事業開始年次	平成17年度～		事業の終期	
総合計画	基本構想	04 土台となる政策「安全・安心」	担当課(室)	水道課
	基本計画	05 安全に暮らせるまち	職・氏名	水道業務係長 山本敏博
	施策	14 安全でおいしい水の安定供給	電話	0869-66-9792

事業の成果	安全でおいしい水を常に安定供給できるよう、水資源の確保と水源施設の維持管理を行う。
成果指標名A	事業費に対する料金収入の割合(%)
成果に関する他の要因	事業費に対する料金収入の割合を示しており、供給コストの縮減を図る。
成果指標名B	
成果に関する他の要因	

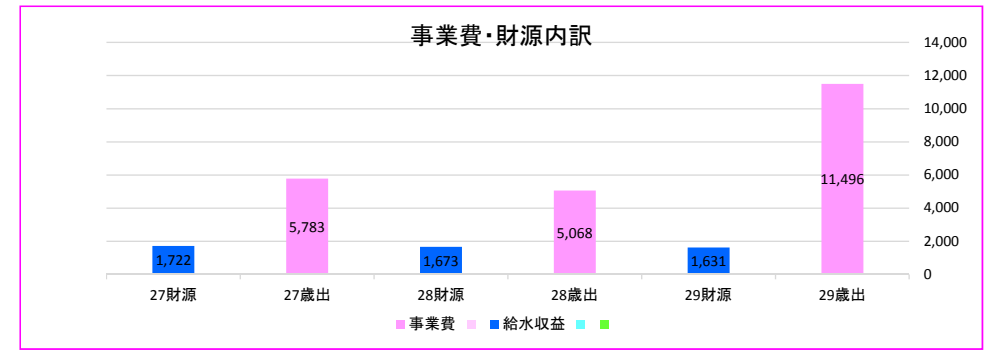
事業の説明	事業概要	市内に6施設を設置しており、水道施設の整備及び維持管理を適正かつ合理的に行うことにより、市民に清浄にして豊富で適正な水を供給する。			
	制度改正の状況	6施設(八塔寺、榎、和意谷、大藤上、大藤下、牛中) 冬の寒波による凍結事故が多発したことに伴い、修繕費が増加した。 老朽化施設更新に伴う更新工事を実施した。			
	結果・実績	給水人口	H27:94人	H28:94人	H29:89人
	有収水量	H27:9,882m ³	H28:9,418m ³	H29:9,185m ³	

経費の説明	共済費	18,912円
	賃金	128,000円
	需用費	2,140,463円
	役務費	24,936円
	委託料	2,572,920円
	事業費計	4,940,341円
	工事請負費	6,555,600円
	歳出合計	11,495,941円

歳入の説明	使用料及び手数料	1,630,768円



有効性分析	事業費に対する料金収入の割合は低くなっており、コスト削減を図る。
-------	----------------------------------



効率性分析 (費用対効果)	水道使用料に対して費用が多くなっている。
---------------	----------------------

妥当性の判断	水道は市民生活に欠かすことができないものであり、安定給水を図るため引き続き事業を継続していく。
--------	---

今年度の重点取組	水質及び供給量を維持しつつ、供給コストの縮減を図る。
----------	----------------------------

次年度の方向性	浄水設備の老朽化により断水事故等が増加しているため、コスト縮減に努めながら機器の取替工事を行う。
---------	--

水道事業会計 事務事業評価シート【VFM】

事業開始年次	平成17年度～		事業の終期	
総合計画	基本構想	04 土台となる政策「安全・安心」	担当課(室)	水道課
	基本計画	05 安全に暮らせるまち	職・氏名	水道業務係長 山本敏博
	施策	14 安全でおいしい水の安定供給	電話	0869-66-9792

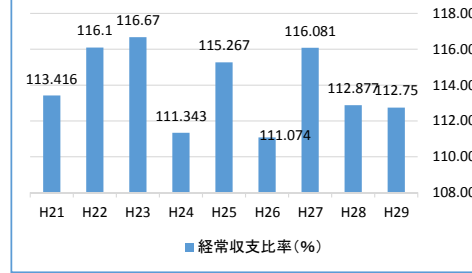
事業の成果	○安全で安心できる良質の水を安定的に供給する。 ○上記の目的を達成するため、経費削減等を図り運営基盤の強化を目指す。
成果指標名A	経常収支比率(%)
成果に関する他の要因	経営状況を表す指標として、収益向上と経費節減等の結果に左右される。
成果指標名B	有収率(%)
成果に関する他の要因	水道料金の徴収対象となった水量を示しており、効率のよい水の供給を図る。

事業の説明	事業概要	水道施設の整備及び維持管理を適正かつ合理的に行うことにより、市民に清浄にして豊富で適正な水の供給をする。 料金収入は減少傾向にあるため、施設更新時には水道施設や管路のダウンサイジングを進める等、費用の圧縮を図るとともに、更新の平準化により支出を抑える工夫をしている。 新規計画として、平成29・30年度で鹿久居島配水池の新設工事を予定している。		
	制度改正の状況	浄水場3か所 配水池35か所 水道管延長414.71km 有収率は減少傾向にあり、平成29年度では本土から鹿久居島間の海底配管の漏水事故や冬の寒波による凍結事故が多発したことに伴い、大幅に減少した。		
	結果・実績	給水人口	H27:22,768人 H28:35,201人 H29:34,596人	
		配水量	H27:6,136,450m ³ H28:6,059,337m ³ H29:6,350,400m ³	
		有収水量	H27:4,887,427m ³ H28:4,878,260m ³ H29:4,930,544m ³	
		有収率	H27:79.65% H28:80.51% H29:77.64%	

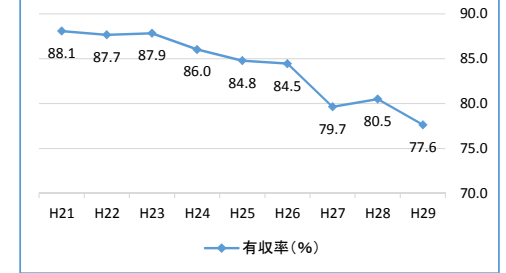
経費の説明	水道事業費用	705,925千円
	営業費用	670,080千円
	うち 人件費	98,933千円／動力費 87,636千円／減価償却費 295,825千円／その他経費 187,686千円
	営業外費用	30,942千円
	うち 支払利息及び企業債取扱諸費	30,511千円／雑支出 431千円
	特別損失	4,903千円
	うち 減損損失	4,903千円

歳入の説明	水道事業収益	790,391千円
	営業収益	763,369千円
	うち 給水収益	732,477千円／受託工事収益 1,837千円／その他 29,055千円
	営業外収益	27,022千円
	うち 受取利息	1,292千円／他会計補助金 3,261千円／雑収益 1,773千円／長期前受金戻入額 20,696千円

成果指標の推移

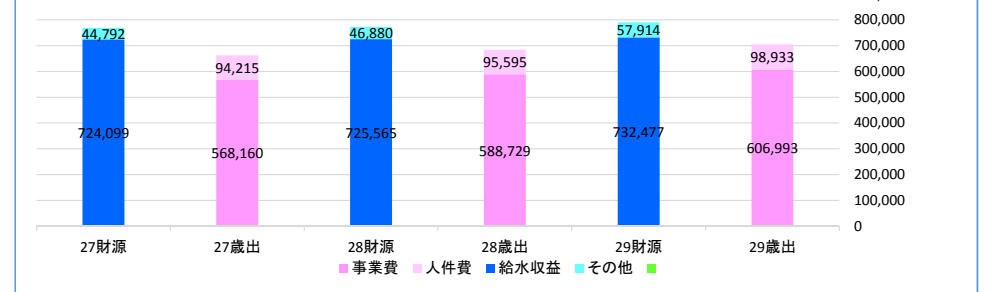


成果指標の推移



有効性分析	経常収支比率は、年度により上下はあるが、減少傾向にある。 有収率については年々減少する傾向にある。
-------	--

事業費・人件費・財源内訳



効率性分析 (費用対効果)	給水収益は安定しているが、費用が年々増加する傾向にあり、今後はより一層の経費削減が必要となる。
---------------	---

妥当性の判断	投入した費用に対して一定の成果を挙げていると判断したため、現行制度を継続する。
--------	---

今年度の重点取組	日生第1加圧ポンプ場に小水力発電機を設置し、新たに売電収入を確保した。また、水道の安定供給を図るため、配水管やテレメーター等の更新工事を行った。 平成29・30年度で鹿久居島配水池の新設工事に着手した。
----------	--

次年度の方向性	引続き、鹿久居島配水池の新設工事を継続していく。 老朽化した施設の更新や耐震化工事を進めていく。
---------	---

飲料水供給事業特別会計 事務事業評価シート【VFM】

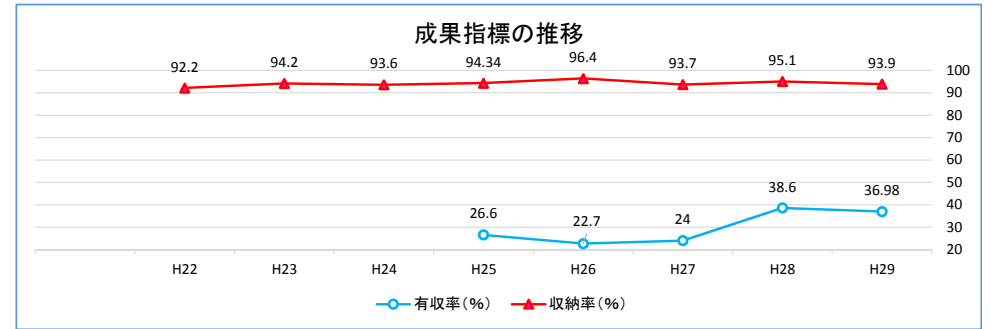
事業開始年次	平成17年度～		事業の終期	
総合計画	基本構想	04 土台となる政策「安全・安心」	担当課(室)	水道課
	基本計画	05 安全に暮らせるまち	職・氏名	水道業務係長 山本敏博
	施策	14 安全でおいしい水の安定供給	電話	0869-66-9792

事業の成果	安全で安心できる良質の水を安定的に供給する。
成果指標名A	有収率 (%)
成果に関する他の要因	水道料金の徴収対象となった水量を示しており、効率のよい水の供給を図る。
成果指標名B	収納率 (%)
成果に関する他の要因	安定した経営を実現するため、収益向上を図る。

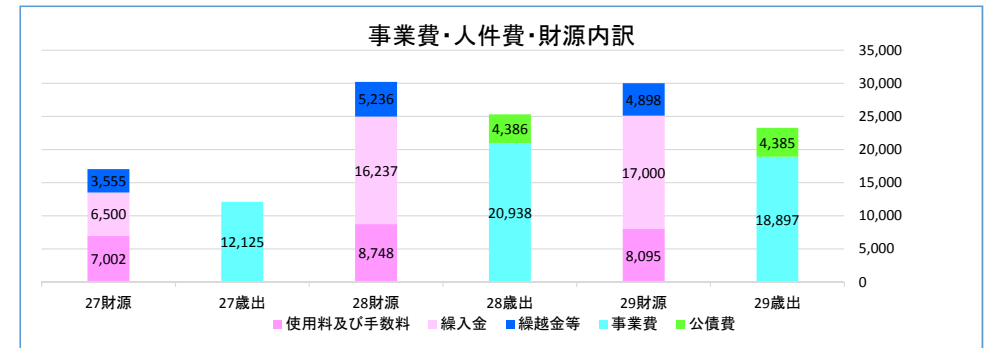
事業の説明	事業概要	平成28年度より寺山、大股、飯掛を事業統合し、4施設を設置しており、水道施設の整備及び維持管理を適正かつ合理的に行うことにより、市民に清浄にして豊富で適正な水を供給する。			
	施設	4施設(寺山、大股、飯掛、鴻島)			
	制度改正の状況	施設の老朽化に伴い、鴻島テレメーター取替工事や寺山水源地電気設備更新工事等を実施した。			
	結果・実績	給水人口	H27:55人	H28:139人	H29:127人
		配水量	H27:40,724㎡	H28:46,497㎡	H29:46,380㎡
		有収水量	H27:9,765㎡	H28:17,948㎡	H29:17,150㎡
		有収率	H27:24.00%	H28:38.60%	H29:36.98%

経費の説明	総務費	17,280円	
	事業費	18,879,489円	需用費 9,445,938円
			役務費 695,565円
			委託料 3,093,186円
			使用料及び賃借料 396,000円
			工事請負費 5,248,800円
		公債費	4,385,550円
	歳出合計	23,282,319円	

歳入の説明	使用料及び手数料	8,094,703円	水道使用料7,996,703円、開栓手数料98,000円
	繰入金	17,000,000円	
	繰越金	4,896,845円	
	諸収入	1,000円	歳計現金預金利息1,000円
	歳入合計	29,992,548円	



有効性分析	有収率については、漏水調査や管路の修理により改善傾向にある。 収納率は毎年90%以上となっており、今後も収入確保に努める。
-------	--



効率性分析 (費用対効果)	水道使用料に対して費用が多額であり、繰入金に依存する経営となっている。 H28年度の事業統合により、歳入歳出ともに増額となっている。
---------------	---

妥当性の判断	水道は市民生活に欠かすことができないものであり、安定給水を図るため引き続き事業を継続していく。
--------	---

今年度の重点取組	送水量の監視を行い、漏水調査、漏水管路の修理等をにより有収率の向上を図る。 地元との連絡を密にし、定期的に漏水調査を行い、漏水箇所の発見に努めていく。
----------	--

次年度の方向性	施設の点検、漏水調査、修理などの維持管理を行う。
---------	--------------------------